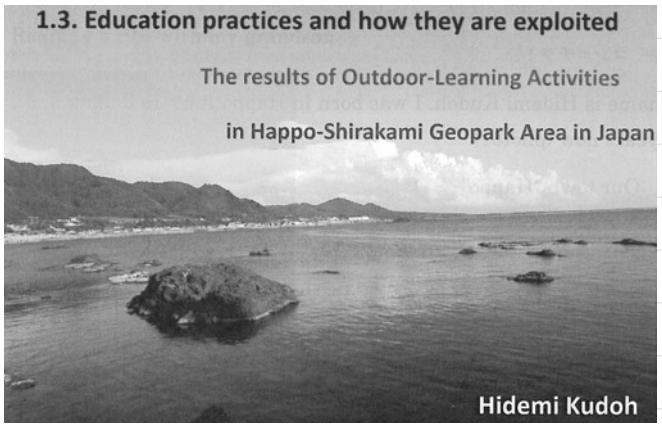
連載 第47回

八峰白神ジオパーク

第６回ジオパーク国際ユネスコ会議に参加して（その３）



イラスト：日沼啓斗君

明けましておめでとうございます。

昨年９月、八森小学校で行っている野外学習の一部を報告しながら、山と海のある町、八峰町を世界に紹介してきました。（写真）

準備

いよいよ発表の順番が近づいてきて私の胸はドキドキ、心はハラハラ。この発表の準備のためにウィリアム・カート・マイヤーさんはじめ仲間たちから多大な助言を頂いてここまできたのだから、もう後には退けないと腹をくくってエイ、ヤーとばかり発表の口火を切りました。

発表の直前まで決断できず迷っていることがありました。それは話の切り出しを英語にしたらよいか、又は日本語にしたらよいか、ということでした。もちろん内容は全て英語で話さなければなりません。カートさんの言うには、おそらく参加者の多くは日本語を少しでも聞きたいと思っているだろうから、出始めは日本語が良い、と。

発表

半信半疑のまま「ミナサン、コンニチハ！」と切り出したところ、会場から「コンニチハ！」という声が波のように寄せてきたのです!!私が驚いている様子を見て会場にいる人達はニコニコしていました。

この雰囲気のお陰で英語が話しやすくなり、発表の終わり頃には聞いている方々の中に、うなずいている人もいました。

話は次のようなものです。八森小学校にはエンジョイ白神山地と題した野外学習が組まれていて、その一つにあたるジオパークコースを私が担当していたこと。学習のねらいは川原でみられる石から地域の地層がどんな岩石から出来ているのか予想し、確かめてみる、というものです。

あらかじめ調査しておいた小川に出向いて、各自岩石ハンマーを手に、また防護めがねをかけ、小川の石をたたきます。（イラスト）

集めた石から、きっと上流の山には同じ石があるにちがいない。そして、上流をさかのぼって本当に同じ石が見つかるか確かめる、という計画でした。

石を集め終わった頃、私と子供たちの話し合いが始まりました。しばらくして子供たちは確信したのです。この山には自分達が集めた石と同じ石は必ずある、と。

実際に沢のぼりをして山に同じ石を見つけた時、子供たちはとても喜びました。

さて、第一の質問「この石はどこから来たの？」に子供たちが誰も答えることができなかった訳は、問題を解決する時、解決にかかわる体験と基礎知識が必要であることを意味しています。だから子供時代にいろいろな体験をさせることが大切であり、その場所としてジオパークは恰好の場所であります。と締めくくりました。

成果

この発表内容は主催者側でも重要視していたらしく、この発表題だけにコメントがついていたのです。

「この発表内容はただ一つ他の発表とちがっているが、すべての研究手法として唯一のものである。」と。

つまり、この発表内容は世界の人々が認めたことを意味し、八森小学校の「エンジョイ白神山地」プログラムは一躍世界の桧舞台に躍り出たのだと感じ取りました。

八峰白神ジオパーク推進協議会
会長　工藤英美
〒018-2612
秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116　旧岩館小学校内
TEL 0185-78-2427